
平成22年度予算第一特別委員会質問要旨

○ 局別審査

平成22年3月5日

質問者（質問順）

- 1 牧 嶋 秀 昭 委 員 (公 明 党)
- 2 田 中 紳 一 委 員 (民 ヨ コ)
- 3 若 林 智 子 委 員 (無 所 夕)
- 4 渋谷 健 委 員 (自 民 党)
- 5 石 渡 由紀夫 委 員 (民 主 党)

港 湾 局

局 別 審 査

1 牧 嶋 秀 昭 委 員 (公 明 党)

1 横浜港の国際競争力強化について

- (1) 直近における横浜港の貨物、コンテナ取扱状況はどうか。
- (2) 国内主要港のコンテナ取扱個数状況はどうか。
- (3) 横浜港の置かれている状況、地位の低下の理由をどのように分析しているのか。
- (4) 市民に対する22年の取扱目標についてはどのように考えているのか。
- (5) 「国際トランシップ貨物及びローカル貨物の集荷に向けた優遇策」の取組内容、時期についてはどうか。
- (6) 「国内各港との連携強化等」の取組内容についてはどうか。
- (7) コンテナターミナルゲートのフルオープンによる荷捌き量の増加予測はどのくらいか。
- (8) 横浜港活性化のための視点、取組の効果を早期に実現するための考えは何か。

2 新型インフルエンザの水際対策について

- (1) 「横浜港における新型インフルエンザ検疫要領」の改定内容はどのようなものか。
- (2) 準備内容、訓練内容はどのようなものか。
- (3) 定期的な訓練実施日への考えはどうか。(検疫記念日7月14日)

3 横浜都心臨海部のウォーターフロントの魅力づくりについて

- (1) 港湾のシンボリックな施設、メディア向けベストポイントは何か。
- (2) 船舶アイドリングストップに対する港湾局の考えはどうか。
- (3) 訪れた人が幸せを感じられるような仕掛けは何か。

4 横浜港における脱温暖化の推進について

- (1) 横浜港の脱温暖化に対する港湾局の認識はどうか。
- (2) 脱温暖化の象徴としての次の計画は何か。
- (3) 脱温暖化モデル地区への考えはどうか。

2 田 中 紳 一 委員（民ヨコ）

1 みなとみらい21地区の開発事業者の公募について

- (1) 他の地区との競争に勝っていくためのみなとみらい21地区の強みは何か。
- (2) 企業誘致活動の取組内容と企業の意見や感触はどうだったのか。
- (3) 平成21年度開発事業者公募で工夫した点は何か。
- (4) 平成21年度開発事業者公募の応募状況はどうか。
- (5) 平成22年度以降の開発事業者公募に対する取組は何か。
- (6) 国際的な街づくりを進めているみなとみらい21地区の企業誘致に対する戦略的な取組は何か、副市長に伺いたい。

2 横浜港脱温暖化推進事業について

- (1) 当事業の目的は何か。
- (2) 環境計画の概要はどのようなものか。
- (3) 計画検討の進め方はどうか。
- (4) コンテナターミナルに係る温室効果ガスの排出源とそれぞれの割合はどうなっているか。
- (5) 横浜港の国際競争力の強化と脱温暖化の推進をどのように両立させていくか。

3 横浜港の国際競争力強化について

- (1) これまでのスーパー中核港湾施策との違いは何か。
- (2) 「国際コンテナ戦略港湾」の主な指定基準はどのような内容か。
- (3) 「国際コンテナ戦略港湾」の指定に向けた申請等の準備状況はどうか。
- (4) 「国際コンテナ戦略港湾」の指定に向けた副市長の見解はどのようなものか。

3 若林智子委員（無所ク）

1 みなとみらい場外離着陸場（ヘリポート）について

- (1) 今年度にヘリポート拡張整備工事を行ったようだが、どのような整備を行ったのか。
- (2) 施設使用条例の改正内容について確認したい。
- (3) 使用料を使用の回数に応じて徴収するのはなぜか。
- (4) 航空法53条ではどのような行為を禁じているのか。
- (5) 独占的に使用している1社に対し、なぜ実態に基づいて使用料を徴収しないのか。
- (6) エクセル航空は86%に近い使用実績を占めているが、常設の要件を満たさない場所で場外離発着場を長期間使用することに問題はないのか。事故があった場合、市も責任を問われる。このことに関し、副市長の見解を伺いたい。
- (7) ふ頭の一角をボートの展示場として使われているが、これはどのような許可がされているのか、どこに貸しているのか、どういう条件となっているのか。
- (8) 催事の行為許可の根拠規定は、どのようになっているのか。
- (9) 許可書の写しを請求したが、文書番号が同じで使用料のみが異なっている。これはどういうことなのか経過を説明していただきたい。
- (10) 決裁を取らないで、市長名の許可証を発行したことについて、これは虚偽公文書作成に問われてもしかたない。事務処理というレベルの問題なのか、私は厳しくみていただきたいと思うが、副市長に見解を伺いたい。
- (11) 本来、目的外使用というのは港湾施設をその用途目的を妨げない範囲内で、しかも短期の使用を原則にしていると思う。他にもYCATに目的外使用させている部分にも乗務員の休憩施設が建設されているとか、そこにそんなものを建てていいのか聞きたかった。目的外使用の内容を精査していただきたい。ここは緊急輸送指定岸壁ですので災害時に利用される一体的な防災拠点でもあると思う。こういう場所の使用はよくよく考えてもらいたいと思うが、これも副市長に見解を伺いたい。

(意見) 財政がきびしい折なので、適切な使用料をきちんと求める、その妥当性をきちんと精査してほしい。

4 渋谷健委員（自民党）

1 平成22年度港湾局予算案の考え方について

- (1) 平成22年度港湾局予算案編成にあたっての基本的考え方はどうか。
- (2) 国際競争力強化を図るためのソフト施策としてどのような予算を計上しているのか。
- (3) 船舶貨物誘致推進事業の内容はどのようなものか。
- (4) この程度の予算額で横浜港の営業活動は十分かどうか。
- (5) 横浜港の営業活動の強化についての考えを副市長に伺いたい。

2 (財)横浜港埠頭公社について

- (1) 想定できる新たな組織体制はどのようなものか。
- (2) 横浜港埠頭公社の民営化、現段階でのメリット・問題点は何か。
- (3) 東京港埠頭株式会社の概要、株式会社移行後の評価はどのようなものか。
- (4) 港湾局が所管する団体とグループ化についての見解はどうか。
- (5) 各港の埠頭公社が民営化に向けての取組を加速度的に進めている理由はどのようなものか。
- (6) 横浜港埠頭公社改革に向けた副市長の見解はどのようなものか。

3 横浜港の集荷力強化について

(1) 内航コンテナ輸送の活性化について

ア 横浜港における内航コンテナのフィーダー輸送の現状はどのようなものか。

イ 内航コンテナ輸送拡大に向けてどのように取組んできたか。

ウ 内航コンテナ輸送の拡大の課題は何か。

(2) 効率的な港湾について

ア 先の委員の答弁を確認したいがコンテナターミナルについて、「元旦以外、荷役以外は24時間365日稼動」で間違いないか。

(意見) 事実がどうかが大重要。私が聞いているところだと、24時間稼働しているという割りには実際の稼働時間は短い。

イ 社会実験の概要、本格化に向けた課題は何か。

ウ 自動化ターミナルのメリットと導入にあたっての問題点は何か。

エ 強制水先制度の問題の認識と、改善に向けた取組状況はどうか

オ これらの重要な課題への対応についての考えを副市長に伺いたい。

4 臨海部の道路網について

(1) 来年度以降の国家予算の仕分け作業で、所要額を予算化できなかった場合の対応はどのようなものか。

(2) 国道357号本牧出口ランプ整備事業、南本牧ふ頭連絡臨港道路整備事業の取組状況、事業の見通しはどうか。

(3) ランプの整備効果はどのようなものか。

(4) 横浜港の物流機能を向上していく上で、特に重要と考える路線は何か。

(5) 京浜3港を結ぶ国道357号についての考えはどうか。

1 横浜港の安全対策について

(1) 防災対策（自然災害）について

- ア 大規模地震に対する横浜港の耐震性はどうか。
- イ 先日の津波への対応はどのようなものか。
- ウ 地震が発生した場合の津波の想定はどのようなものか。
- エ 地震発生時の物流の拠点としての役割はどのようなものか。
- オ 高潮の安全性はどうか。
- カ 大黒ふ頭を地震に強い臨海部物流拠点として位置づけた考え方と平成22年度の事業展開はどのようなものか。

(意見) 災害発生時の横浜港の役割は重要。機能不全にならないよう、よりいっそうの安全対策を講じられたい。

(2) ふ頭の保安対策について

- ア 横浜港のセキュリティ対策はどのように行われているか。
- イ テロを想定した対策はどのようなものか。

(意見) これまでの経験では想定できない災害や犯罪があり得る。過去の経験だけにとらわれず、常に先を見た対策を講じられたい。

(3) A P E C 横浜開催への対策について

- ア A P E C 開催に伴い港湾局の担う役割は何か。
- イ A P E C 関連予算はどのような対策にかかる費用か。
- ウ 不審物対策や自主警戒などは、具体的にどのようなことを行うのか
- エ 国や警察との連携についての考え方を副市長に伺いたい。

(意見) A P E C が事件・事故なく無事に開催されることが国や横浜に課せられた最低限・最重要の役割。何かあってはすべてが台無しになる。徹底した安全対策で「安全・安心の街ヨコハマ」を海外にもアピールすべき。

2 象の鼻パークと今後の新港地区の街づくりについて

- (1) 象の鼻パークの整備効果とY150との相乗効果は何か。
 - (2) 象の鼻パークについて新港地区の街づくりを考える上での位置づけはどのようなものか。
 - (3) 市民協働型で美化活動を進める取組と今後の展望は何か。
 - (4) Y150では有料会場だった街区の今後の活用はどうか。
 - (5) 新港地区の街づくりの方向性はどのようなものか。
- (意見)「新港地区」は横浜の観光資源・市民の憩いの場として大切な財産なので、夢のある、多くのみなさんが楽しめる街づくりをされたい。

3 京浜三港の連携について

- (1) 東京港、川崎港、横浜港の三港それぞれの特徴をどのように認識しているのか。
- (2) 三港の特徴を活かす観点からの京浜三港としての合理的かつ効果的な施設及び機能の配置の方向性はどのようなものか。
- (3) 京浜三港連携の視点からの横浜港の港湾計画への反映はどうか。
- (4) コンテナ船の大型化への京浜港の対応はどのようなものか。

4 国際競争力強化と港湾整備について

- (1) MC-3の整備について、平成22年度とその後の事業はどうか。
 - (2) 南本牧ふ頭連絡臨港道路についての事業効果と今後の見通しはどうか。
 - (3) 国際コンテナ戦略港湾を目指す上での横浜港の整備計画の考え方について副市長に伺いたい。
- (意見) 東京港や川崎港としっかり連携をとり、「国際コンテナ戦略港湾」として必ず選ばれる計画づくりをされたい。当局からは、幅広く港の重要性やハブポート戦略の重要性を発信し、市民の間に横浜港の取り組みへの応援が広がるよう期待する。